

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1981 1・2

通産省内デザイン化推進計画

ー オフィスモデル化受託事業中間報告 ー

55年11月中頃、上記計画のワーキンググループが公募された事は御承知の事と思います。締切り迄に正会員・賛助会員合せて20の応募があり12月2日に内容説明会を開き、チーム編成・チーフの指名を行い現在は計画の最初のステップの作業を進めつゝあります。まだスタートしたばかりですが、計画の概要を中心に報告します。

● 計画の目的

当計画は、ワーキンググループ募集の文面にもあった様に、検査デザイン課（久禮彦治課長）から提案されたもので、JIDの55年第3回理事会で受託事業として承認されました。計画の目的は、官庁のデザイン水準が民間のオフィスと比較してむしろ立遅れている事に目を向け、それが働く者にとって快適とはいいがたく、事務能率低下の遠因ともなり来訪者にもまた、少しく不快なイメージを与えているのではないかと考え、デザイン振興に責任を有する通産省が率先してデザインの向上を図り、その成果を広く啓蒙・普及を行おうというところにあります。

目 次

● 通産省内デザイン化推進計画	1
● 産業デザイン国際ビエンナーレ構想	3
● 中部支部結成10周年記念総会記	3
● 55・第5回理事会議事録	5
● 1981年 JID 新春交礼会報告	8
● 『インテリアマップ TOKYO'81~'82』	9
● 『日本のインテリアデザイン』	9
● 第10回'80ジャパンショップ	9
● 京都デザインフォーラム'81公募	10
● 神奈川県デザイン会議'81	10
● 会員の消息	11
● 事務局短信	15

● 計画の対象

そこで58年度完成予定の新庁舎を目標とし、55年度より調査・研究を行い、56・57年度には現庁舎内の事務室から公募によりモデル課を選びケーススタディとしてインテリアデザインを行う。58年度には新庁舎の幹部室・会議室・事務室（一般事務室及び窓口課）・サイン・モニュメント・庭園その他のデザインを行う予定です。その結果を報告書にまとめ同省内外にその趣旨の啓蒙・PRを行う事になっています。

● 計画のステップは以下の通りです。

1. 調査・研究（既存事務室・事務処理等・建築概要の把握・関連資料収集）
2. 企画・開発（システム及び什器等の開発案、デザインワーク以前のコンセプト作り）
3. デザインワーク
4. 報告書作成
5. PR

以上を各年度で繰返して行う事になります。現在は1.の調査・研究を4つのグループに別けて作業を進めています。

- A. スペースプランニング（事務の流れ・動線動作域等）
- B. 什器・備品（机・イス・カウンター・収納・書類等）
- C. 設備（空調・電気・防災・コミュニケーションシステム等）
- D. 内装材（壁・床・天井・省エネ対策等）

今後の日程は56年3月末迄に調査・研究を終え、57年3月末迄に、二つのモデル課を中心にして、2～4のステップの作業を行う事になります。

● 組織・運営

- 1) JID ワーキンググループ（計画の1～5に相当する作業・研究を実行する）

	正 会 員	賛 助 会 員
A. スペース プランニング	● 田辺 麗子 市村 幸子	大丸装工事業部 竹中工務店
B. 什器・備品	● 藤村盛造△阪井良種 山田伊三郎	イトーキ ・岡村製作所 プラス ・ハウトク

	正 会 員	賛 助 会 員
C. 設 備	● 永原 浄	松 下 電 工
D. 内 装 材	● 中田 重克 日方 和城	川 島 織 物

●印チーフ、△印連絡役

2) 省内デザイン化推進委員

通産省より委嘱された委員、当計画の方向づけを行う。三輪正弘（委員長）・渥美孝道・大野美代子・木村戦太郎・白石勝彦・豊口克平（以上JID会員の日記）

運営は省内委（担当、渥美・大野・木村）を中心として、運営会議を開き必要な決定等を行う事とする。

予算は各年度150万円の予定。

・以上が当計画の概要で、現在は前述した様に1.の調査・研究を進めつゝあり、1月20日にモデル課との予備打合せを行い続いてオフィスの実態調査（実測・観察・撮影・アンケート・ヒヤリング等）に入るになります。これ迄の各チームの活動は、かなり活発に行われており、調査内容・方法等に関する書類の作成・資料の収集も進んで居ます。

たゞ各メンバーの活動にも限界があり、資料文献の入手に関して、会員・賛助会員の情報提供や協力をいたゞきたいと考えており、この誌上をかりてお願い致します。ほしい情報は、オフィスのインテリアデザインに関する全てですが、特に労働心理学・色彩学又、調査法に関する統計・分析等に関しては、インテリアデザイナーとしては、弱い所でもあり、実際面での協力がいゝけると助かります。

58年度まで続く長い計画でもあり、出来ればその成果をオフィスのデザインマニュアルにまとめたいとも考えており、協力者にとってもメリットのある方法を考えたいと思つて居ます。たゞそれをレベルの高いものにまとめ様とすれば、メンバーの補強や予算の裏付も必要条件にならうかと思ひます。マニュアルは別にしても、当計画は、JIDの公共性、社会への認識拡大などの点から見て意義のある内容と思われるので、会員各位の御協力を重ねてお願いして、第1回の報告を終りいたします。

（省内委員・木村記）

産業デザイン国際ビエンナーレ構想

— 最近のニュースから —

通産省は5日、わが国を産業デザインの新しい「震源地」とすることをねらいに、産業デザインの大規模な国際コンペティション（提案競技）「産業デザイン国際ビエンナーレ展」（仮称、2年に1回）を開催することを明らかにした。同省は同展を産業デザインに関する世界的な登竜門に育て上げたいとしており、そのため副賞の賞金総額も1回10万ドル（約2千万円）と思い切った金額にする方針だ。57年度に1回目を開催する予定で、開催地は未定だが、大阪府と大阪市が「やるなら恒久的に大阪で」と早くも名乗りを上げている。

わが国は米国と並ぶ産業国家だが、これまで産業デザインに関する国際的なコンペティションを持っていない。特殊なものとして、わずかに照明器具の専門店、ヤマギワ株式会社の後援する「東京国際照明デザイン・コンペティション」（隔年）があるだけという。産業デザインのコンペは1924年創立のミラノ市の「トリエンナーレ展」（3年に1回）を筆頭に、「インダストリアル・デザイン・ビエンナーレ」（ユーゴ）、「国際ポスタービエンナーレ」（ポーランド）、「ブラウン賞」（西独ブラウン社主催、隔年）など欧州諸国での開催がきわめて活発だ。

このため、内外のデザイン関係者の間から「日本独自の国際デザイン展」の開催を求める声がかねて高かった。たまたま伝統のあるミラノの「トリエンナーレ展」が昨年の夏、主催者のミラノ市議会の政治対立で中止になったこともあり、また国際的なデザイン展の開催はわが国の文化国家としてのイメージ向上にもつながるとの判断もあり、通産省は今回、新たな国際デザイン・コンペティションを発足させることにしたものである。

同省によると、「産業デザイン国際ビエンナーレ展」は①募集テーマに沿って今後数年内に製品化されそうなデザインを競い合う狭義のコンペティション②最近数年間に製品化されたもののうち、テーマに沿った優秀なものを選択表彰するアワード——の2本立てになる。募集テーマについては、文化的、公共的問題の強いテーマを毎回2つ程度設定する。たとえば、無公害、省スペースの都市内交通

機器、高齢者、身障者のための移動機器、空きかん、プラスチック、タイヤなど都市ゴミの収集・再利用計画、個人住宅の大陽熱利用システム、開発途上国産業のためのデザインが検討テーマとして上がっている。

同展開催のための必要資金については、募集、審査などの中核的な事業費については国の資金を使い、副賞、展示会、事務局費などの周辺事業費については日本自転車振興会の補助金と民間からの募集金で賄うことを考えている。通産省の計算だと、隔年の開催で1日分の全体経費は約1億4千万円になる。うち国の負担は3千万円で、すでに56年度政府予算案で同展の準備費として969万円が認められた。残り1億1千万円については、日本自転車振興会から4億円、民間から4億円の合計8億円を集め、基金として運用、利子などの果実により賄うことを考えている。

（以上毎日新聞 55.1.6より転載）

付記：以上の内容で、この画期的な新事業の原案は、同省の、輸出検査及びデザイン奨励審議会・国際デザインコンペ検討小委員会（清家清委員長）で検討が重ねられて来たもので、委員長以下7名の委員の一人に、JID会員の渡辺優さんも参加している。この事業はまた、2月2,3日に開かれた国際シンポジウム（関連団体のうごきの項参照）と隔年で行われる見通しで、いよいよ我が国デザインも世界に翔ぶ時代に入ったと考えてよいでしょう。

（事務局）

中部支部結成10周年記念総会記

— 陶磁の里と博物館明治村研修旅行に寄せて —

去る11月15、16日の2日間、JID中部支部発足10周年を祝い、名古屋を軸として記念総会が開かれました。

15日は雲一つない快晴にめぐまれた中を、はるばる米国から来日中の太陽熱に関する技術者ハワード氏と、ソーラーエンジニアリング誌の編集長アンナ氏が、会員市村女史のお友達として参加され、東京から22名、関西から1名、中部は10名という方々が参加して下さいました。

先づ、アイチ陶のショールームで同社製品の概略をスライドで拝見した後、ゆったりとしたバスで見学に出発しました。

最初は名古屋市東部にある「サンプラザ」という完成後

2年目の勤労福祉会館でしたが、一般住家の中に、明るい茶系のタイルを貼ったモダンな建物が市街地再開発といった感じで、広々とした空間をつくり出しておりました。関係者のご案内で一巡しましたが、結婚式場、屋内プール、宿泊施設は身障者用もあり、これからの方向を指しているものの一つとして見学したものです。

この後、愛知県の特産ともいべき焼物のルーツを探るコースとして、かつての古戦場・長久手の丘にある愛知県陶磁器資料館を訪ねました。

ここは谷口氏の設計による建物で、広い敷地に2棟を建てて日本の陶磁器の収集、展示を行っており、古いものだけではなく磁管、セラミックパイプといったニューセラミックまでを展示しており、興味をもって見学をしていただけたと思います。

しかし、生憎と時間が少なく、4時過ぎには当日の宿泊先、大山の田中屋へと向かいました。とにかくよいお天気でした。バスもゆったりしていました。参加の皆様方も本当に気持ちよく名古屋の秋を満喫していただいたかと存じております。

(中部支部総務委員長：林 寅正記)

一日の疲れ身を、木曽川畔の田中屋旅館で、水に映える夕日の美しいひととき、広間に於て中部支部結成10周年の記念講演会が開かれた。

講師は、岐阜県陶磁器陳列館長、熊沢輝雄氏で“美濃の陶磁器あれこれ”と題して、焼物からインテリアまで広範囲の内容を簡明にお話し頂いた。

まず焼物は、磁器、炉器、陶器の三つに分けられる。磁器は叩くと金属性の音がし、白くて透光性があり、焼き温度は1230℃～1330℃、有田焼で代表され、多治見、瀬戸など各々の特長をもっている。炉器は堅い音で、茶ぼっく、石透光、常滑の瓶、鉢など。陶器は、酸化焼成のものが多く、色彩的に豊富で、1000℃～1200℃、柔らかい味をだすことができる。温度をかけるものがシンプル、温度の低いものがカラフルと考えてよい。

流通関係では、商品がお客を追っていたが、現代は消費者の知識も高くなってきた。窯は日本で2000窯と云われていたが、今では100窯くらいになり、益子、沖縄などいいものも作られていたが、量産に追れて少なくなってきた。

なお焼物のコンペの出品傾向が紹介され、1966～79年の間、インテリア関係の出品が多く、全体の69%の1365件も応募されている。焼物とインテリアの関係は深いので、インテリア・デザイナーは機会をみて窯を見学し、何を作っているかを知り、何を創らせねばならないか真剣に考えて欲しいと熱っぽく話を結ばれた。

講演のあと親睦会は、関東、関西、中部やさらに外国の方も入り国際色豊かな自己紹介に始まり、お酒のすゝむにつれて、古い唄、新しい歌など、かくし芸よろしく宴はいつつきることなくつづいた。

(中部支部広報委員長：堀内啓二記)

真下に日本ラインの清流、前面に国宝犬山城の威容が迫る宿を後に一路明治村へ。東洋のゼネバと云われる入鹿池を見おろす小高い山の上に、遠くなった明治時代を偲ぶ明治村がある。錦織りなす紅葉が一層情緒を演出してくれていた。

一同入村したところで明治村の職員海老沢氏はじめ関係者の出迎えを受けた。昭和40年に開村して以来、移築建物も次第にその数を増し現在53棟、今も帝国ホテルを復元中である。広大な敷地にゆったりと配された建物をつ一つ入念に見学するには、とても一日では廻りきれない感がある。

先づ、海老沢氏の案内で、皇宮警察署別館の中へ。ここには赤坂離宮の家具が展示してあり、一般には入室は許されない部屋である。当村の家具類復元工事を担当された会員岡嶋敏弘氏や中村理事の解説も加わり、一同椅子を裏返えしたりして興味深く見学。

続いて西郷従道邸を見学したところで記念撮影。次に商家、東松家住宅(油屋)へと進む。ここも特別入室を許され、各室を見学。茶室をはじめ客間には、細部にわたる配慮がうかがわれ、心憎いばかりの造作に一同感嘆の声も。東松家を後に次へと歩を進めるうち、京都七条巡査派出所の前にさしかかる。この村の名物男の一人平光さんが立派なヒゲをさすりながら一同に敬礼。この方はなんでも元発電所の所長さんとか。氏が「デザインとは……云々」には一同ビックリ。

この村にはもう1人千田さんという名物男がおられる。京都電車の車掌役をしている方で、そのユーモアたっぷり

の話しぶりは定評のあるところ。こうした役者さん達の努力もあって、ここはすっかり遠き明治の時代の雰囲気があったよっていた。

この他聖ヨハネ教会のステンドグラス等興味深いものが多く見受けられた。

四季折々の異なった情緒を求めて、この村に幾度か訪づれる人々がきっと沢山おられることだろう。こうして一同は、すっかり明治の人となって帰路についた。

(中部支部事業委員長：池田高明記)

55・第5回理事会議事録

日 時 昭和56年1月23日(金) 1:30～4:30 PM

場 所 JAA 3階会議室

出席者 理事長 三輪 正弘

副理事長 泉 修二

名誉理事 岩瀬 要三

理 事 川崎 浩, 木村戦太郎, 垂見健三,

長 大作, 富田卓司, 中村圭介,

長岡貞夫, 樋口 治, 松本政雄

(委任状) 榎田 均, 坂本康四, 白石勝彦,

渡辺 優。

はじめに議事につき、三輪理事長より説明あり。泉副理事長補佐にて、報告事項より審議に入る。

I. 報告事項

- ① 坂本理事(九州事業支部長)が、昨冬より病を得て、療養中である。当分の間、坂本宅とも距離的に近い溝口新会員に事務局代行を委嘱した。各支部事務局には文書で連絡済。

・JID九州支部事務局：筑紫野市諸田116(☎818)

溝 口 新 方

(電話 09292-6-2112)

尚、坂本理事には、お見舞状を差上げたが、一日も早い回復を祈りたい旨事務局長より発言あり。

- ② 国際シンポジウム「企業経営における創造性と文化性」(主催：JIDPO 日本産業デザイン振興会、昭和56年2月2,3日)との関連事業として計画されてい

る、「産業デザイン国際ビエンナーレ展」(仮称)の構想について事務局より資料の提示あり、説明が加えられた。それによると上記シンポジウムと交互に2年毎に計画実施する。狙いは我が国を新しい産業デザインの震源地にしようとするもので、すでに、56年度通産予算として調査費968万円が確保されている。

今後、省内の国際デザインコンペ小委員会(清家清委員長)で内容の検討が進められる模様。会員からは渡辺優さんが委員として参加している。基金づくりなど、将来JIDとして協力することが予想される。

また、川崎理事より大阪城築城400年記念として、本事業の全面的支持の意志表示を聞いている旨の発言が加えられた。

③ 後援関係

「神奈川県デザイン会議'81」(56.3.20.主催：神奈川県デザイン協会)

上記の後援名義につき了承された。

④ 中部支部関係で、以下の2点につき、資料をもとに報告

- ① 55年度デザイン研修終了報告(55.10.3～11.26)

- ② 1981年インテリアデザイン講演会「インテリア産業の新しい動向」

中部デザイン協会との共催、愛知県工業指導所の後援(56.1.28)、講師は三輪正弘理事長となっている。

⑤ 各委員会、各支部関係

- ① 総務委員会(中村委員長、事務局長)

1981JID新春交礼会は出席申込70名を超え、盛況が予想される。

- ② 広報委員会(長岡委員長)

新マップ特別委員会の委員が併任しているので、スケジュールが若干遅れているが、3月には発行できる見込。

- ③ 渉外委員会(川上委員長の代理として木村理事)

通産省オフィスモデル化構想が受託事業として始動しているが、現在賛助会員のメリット、著作権に関する事項など、省内委員会で煮つめた上で理事会に諮りたい。

ワーキング・グループのメンバーについて質問があり、

あり、各4グループの詳細説明がなされた。(詳細は
ニュース別項参照)

三輪理事長からも省内委員会の活動を含め、補足
説明あり。

㊦ 関西支部(川崎理事)

- 関西デザイン団体協議会の設立は進行中である
が、名称は連合会となる方向である。ファッショ
ンデザイン関係の参加を現在打診中。
- 「JIDAデザイン会議'80大阪」に会員が参加し
た。
- ポートピア'80(55.3月)に見学会を計画の予定
- '80「トータルインテリアショウ」(55.11.29.~
12.3)の成果について富田理事より補足報告あり。
インテリアデザイン面から会員4氏の協力が得ら
れたが、ショウとしての成果は今後に期待したい。
コンセプトを固めた出品小間は成功したと思う。

㊧ 中部支部(宇賀支部長の代理として松本理事)

前項㊦-㊧, ㊨デザイン研修コース及び講演会に
ついて補足説明あり。

㊨ 関東支部(尾上支部長の代理として事務局長)

2月20日に「税の懇話会」、3月20日に「省エネ
電気器具のセミナー」を計画している。

㊩ その他の事項

㊦ 新マップ特別委員会(長堀委員長の代理として長
岡理事, 事務局長)

前回発行のマップと比較して、ボリュームのある
もので進行中。2月20日完成、刊行の予定。

㊧ 鈴木三スケッチ集(事務局長)

1月25日最終申込締切で、2月印刷・製本、3月頒布開
始。現在集計中であるが120部を大きく超える見込。

㊨ 1981日本デザイン団体交礼会参加者81名。JID
の出席会員は泉副理事長以下16名で、友好団体との
親睦を深めた。

㊩ 選考委員会(渡辺委員長の代理として事務局長)

1980協会賞の申請を1月20日締切ったが、申請
数が芳しくないのを、委員による推薦を実施したい。
この点について理事会は了承。

㊪ 出版特別委員会

現在選定作業が進んでいるが、2月中に終了。3

月末には完成の予定である。

㊫ 既述㊨項のシンポジウム直後、2月4日に日本デ
ザイン団体協議会が共催で、国際デザイン講演会
「世界の新しいデザイン動向を探る」(講師:A・
プーロス, K・イラン)を開く。在京会員を中心に
バガキ発送済。

㊬ 財政状況

55.12.31現在の報告が事務局長よりあり、これを承
認した。

主な内容としては、

㊦ 新年度会員名簿が12月に完成し、頒布を開始した。

㊧ 雑事業として鈴木三スケッチ集の刊行が近く、
収益を確保したい。

㊨ 現在総予算に対する予算実行は74%である。

㊩ 明治村と陶磁の里研修旅行は約25万円の赤字とな
った。

これは参加者が予定に達しなかったためである。

㊪ 現在支払を控えているものの総額は約320万円と
なるが、その内約200万円は㊨項の名簿作成費であ
る。その大部を広告収入約165万円で充当する予定
である。

㊫ 監査報告

渡辺(力)岡村両監事欠席のため、代理として事務
局長より報告された。1月19日、22日両日、渡辺監事
より監査を受けた結果、内容においてすべて正当であ
る旨承認を受けた。資料として同監事承認済の収支
決算書を提示。理事会はこれを承認した。

II. 議 題

㊦ 第13回通常総会までの運営(案)

5月29日(金)に総会を予定すると以下のスケジュー
ル(案)となる。

3月13日(金) 委員長連絡会議(事業及予算案)

3月27日(金) 55・第6回理事会(案を上程)

4月24日(金) 委員長連絡会議(理事会審議後の修
正案)

5月29日(金) 56・第1回理事会, 総会

各支部での事業計画は各支部で詳細を独自につめる。

② 新事業委員会などの設置について（継続審議）

① 泉副理事長より前回の理事会に引き続き、継続審議のための一般説明がされた。特に本部事業と支部事業との連携面、全国的な展開を考えた場合の展覧会、セミナーのための事業委員会の設置を考えたいとしている。

② 新委員会としては、以下の新設を考えている。

- 教育委員会（島崎信委員長）
- 事業委員会
- 業務委員会（垂見健三委員長）

以上につき、それぞれ支部内の、種々の担当委員の参加、接触等委員会の運用面を重視することを考慮すること、予算上の裏付けをどうするか、など活発な討議の結果、次年度よりの上記3委員会設置をいずれも賛成多数で承認した。

③ 個人事業税新設について

政府税制調査会の答申（案）によれば、地方税として、個人事業税の新設条項が見られる。今2月の国会で立法化に進むと思われる。

中村総務委員長より事務局提出資料および中村私案に基いて詳細の説明がなされた。

① 地方税法（第72条）によると、従来より免許、登録の必要とする第三種事業中に、デザイナー、芸術家は含まれていない。

② 事業を行う個人の控除額は220万円であり、標準税率は所得の100分の5

③ 事業所得と給与所得など、他の所得との関連について。

以上を含む諸点について質疑が行われ、いずれ日本デザイン団体協議会などにも呼びかけ、必要な対応活動を行なうこととなった。

④ 入退会関係

	氏 名	推 薦
入会	佐藤 孝男（正会員）	八代美智子，林 寅正
	早川 高（"）	宇賀 敏夫，松本 政雄
	西田 浩人（準会員）	日方 和城
	中沢ひろし（"）	"
	松岡 和吉（"）	"
退会	北村 紀次（正会員）	
	日本鋳業㈱(賛助会員)	

以上の件につき資料に基き審議され、承認された。

尚、この他入会希望が2件あり、これについては資料不足のため、改めて次回提出となった。

今回は56,327（金）の予定。

（以 上）

九州事業支部のニュースより

九州事業支部では、去る12月13日支部ニュース（B4版）を発行した。記事は支部長坂本康四さんが倒れたこと、見学会のこと、新年懇親会の予定、グロピウス福岡展の予告など、盛り沢山である。その中から、トップ記事の抜粋を転載いたします。

突然ですが、坂本支部長が12月3日過労のため入院されました。検査の結果、心不全及内臓器官にも大部無理をしているとのことようです。入院は年内（23～4日頃）ぐらいと思われますが、心不全のため2ヶ月以上の療養が今後必要との事です。私、6日、13日、入院先の福岡医師会病院に参りました。支部長には顔色もよく、思いのほかお元気でした。たゞ急に動くと思づかいが荒くなるとの事です。その折、支部事務局のことを大変心配され、自分が良くなるまでの仮事務局をどなたかにお願いしたいとの事で一度総務の篠島さんと話し合ってほしいとの御希望でしたので、10日大川木工指導所に私お伺いし色々打合せしました。

その結果、坂本支部長とも近いし、今後の連絡等何かと都合がよい方がよいのではないかという事で、支部長病氣全快までの諸事務を私が引き受けることになりました。

私自信、協会の仕事はいまだ経験も浅く、かえって皆様に御迷惑をかけることと思いましたが、突然のことでもあり努力したいと思います。御指導、御協力の程お願い致します。

◎仮事務局 溝 口 新

自 宅 筑紫野市諸田116 〒818

でんわ 09292-6-2112

勤務先 博多工業高校インテリア科

福岡市南区筑紫丘2丁目2-1

でんわ 092-541-2668

付記：坂本康四さんは退院され、現在自宅療養中です。
ご回復を祈ります。(事務局)

1981年JID新春交礼会報告

中 村 圭 介 (関東)

恒例の新春交礼会を1月23日(金)、本部事業として開催しました。今年は昨年企画が良かったせいか、会員の皆様の出席が過去最高となるなど、事業への関心と会員相互の親睦を深めることに成功したと思います。

三輪理事長の挨拶と事業活動についての説明、協力要請。続いて川崎理事(関西支部長)の乾杯に、会は始った。総合司会は中村、裏方は鈴木、川野、山下、山田(晃)、山品の各総務委員。準会員の佐藤勝さん。

例年のように新人紹介があった。新入会員は下島資子さんなど11名で、中部支部の田村悠さんも出席した。賛助会員1社は小柳ベニヤ㈱。皆さんの簡単なプロフィールが紹介された。新人紹介のあと、日頃事業へのご協力をいただいている賛助会員各社(17社)の紹介と、それに対し、各社担当の方々の挨拶も行われた。

杉総務委員の盡力で確保できたプラザメンテルス六本木のホールは、75名会員の熱気で溢れ、JIDの若さが一杯の交礼会となった。終りに近く、恒例となった福引きは、各社製品など、賛助会員の寄附によるもので、抽選に一喜一憂するなど、楽しさを添えた。個人会員(豊口克平、渡辺力、白石勝彦、鈴木栄二、高田紀久枝)各氏からも心の籠った寄附が今年は目立った。各位に誌上より篤く御礼申し上げます。

予定通り8時散会。今年も元気で、がんばりましょう。

日本デザイン団体協議会 新春交礼会報告

去る1月8日(木)、恒例の5団体(JID, JIDA, JPDA, JCDA, JAGDA)による新春交礼会が開かれた。場所は浜松町世界貿易センタービル別館の(財)日本産業デザイン振興会ホール。通産省から、久禮検査デザイン課長をはじめ関係者、日本産業デザイン振興会から石田専務理事、来栖常務理事などが出席した。

5団体は八尾日本パッケージデザイン協会理事長をはじめ各役員が勢揃いした。JIDは泉副理事長が代表として出席。

1980年代の第一年目にあたる趣向として、「コモカブリ」と木の香も新しい「マス」で乾杯。いつものように各団体うちとけた雰囲気交礼の実を挙げた。恒例の福引きで本年の運を占うなど、出席者はそれぞれの決意を胸に午後5時過ぎ散会した。

出席者は81名、中JIDからは、理事を含む17名で、昨年より多い参加が得られたのは喜ばしいことでした。



(事務局)

'81在阪デザイン6団体 「年賀交歓の会」

昨年より、在阪デザイン5団体では、新しく日本グラフィックデザイナー協会大阪地区の参加を得、1月8日デザイン界の発展と、お互いの隆昌を祈って上記の会を催した。

会場の大阪デザインセンター3階の会場には、各団体の有力会員が一堂に参集、和やかな中にも活気の溢れた交歓会となった。JIDからも川崎支部長をはじめ文末の12会員が出席した。

また、会場では「デザインの雰囲気の醸成とPR」と銘うって1981年カレンダーを飾り、デザイン投票を行った。6時過ぎ、本年の健闘を誓って散会。

尚、以下のJID会員が出席しました。

秋田、浅田、川崎、柏原、金子、近沢、富田、見野、安永、渡辺、野口、

伊吹(日建設計、賛助)、大堀(松下電工、賛助)

(以上いずれも順不同、敬称略)

(関西支部)

『インテリアマップTOKYO'81~'82』

好評であった前回マップのあとを受けて、標題の新マップの企画・編集・出稿勧誘などが、新マップ特別委員会（長堀映司委員長）で精力的に続けられていましたが、このたび、漸く、樹C B Sソニー出版より試刷ゲラが届けられました。この調子ですと、2月20日頃には無事完成、やがて会員の前にお目見得することになるでしょう。前回に較べると内容的にも更に充実したもので、世の類書には見られない一級のガイドブックとされるでしょう。掲載会社の出稿勧誘には在京会員を中心に多数の方々のご協力を得て実現したものだけに、一日も早い完成が待たれるところですよ。

（H. Y記）

『日本のインテリアデザイン』

— 順調に進む出版特別事業 —

先の当協会20周年記念事業の一環の棟尾を飾る出版事業『日本のインテリアデザイン』についての中間報告の二つ三つ。昨年11月以降は、毎週1回六耀社にての編集企画の打合せ。とくに、作品の募集のしかた。他の団体の方法はどうか。いかにして、多数の作品を集められるか。その選定の方法は、等々山積する課題と日数との間を右往左往。そして、サブテーマ「光とのかかわり、や応募要項と選定方法の決定そして印刷・発送。加えて、各種の広報機関へ。

さて、何点あつまらそうか。〇〇賞でもあった方がよかったのではないだろうか、と個人的にも危惧してみた。

ところが、作品提出の〆切り日が迫るに従がい応募点数はふえる。最終的に選定対象になったのは、会員・非会員を含め700点有余となる。

ただちに、整理・分類し（これがまた大変）一覧表の作成。そして、ただちに選定者の皆さんに発送する。選定会場の都合から1日しかホールが確保できず止むなく通知。勿論、これらの作業と平行して委員会での選定作業を進めてゆく。ところが、またまた……。

ある選定者からは辞退の申し入れやら選定方式への御不満やらの声、こえ、こえと。

ここで、これらの方法が全く理想的なものであるとはい

い難く、かといって日数や諸経費のことも考えると、正に思案投げ首。

委員長はじめ委員一同思わず顔を見合わせる。委員長一言。曰く「活力のある本を作ろう」。

そこで、厳正な審査が行なわれたと云うよりは、当委員会が責任をもって選定を行なったと。そして編集権を100%いかしたと。（そして選定者の中には、正副理事長中村さん、長さんには直接選定作業に御協力をいただきありがとうございました。閑話休題。

さて、一方ではエッセイ原稿の依頼。タイトルの選定等々を含め、正に同時進行のドラマを進めているプロデューサーよろしく。

現在、選定も終り、写真モノクロ カラー等のネガ借用のお願いやら、これにまつわる諸事項の発生。出版社、委員会での打合せ等瑣末なことから、これからの広告のことなど発刊に向けての作業が日夜くり返されているといっても過言ではありません。乞う御期待。

中間報告の終りに、会員の皆様へのお願いとして。皆様の御関連の企業・会社なりに当『日本のインテリアデザイン』への広告掲載への御協力をお願い致します。よろしく。

何はともあれ、より活力のある本をめざして、今週末来週も当委員会は開かれています。（写真は、選定作業の一角。泉副理事長、出版者の方もみえます）

（文責・上尾）



「デザイン・フロム・スカンジナビア」

一昨年ご紹介して、会員の1割の方々が利用されたので『デザイン・フロム・スカンジナビア——10周年記念特集号』の新刊をご紹介します。ぜひ、この機会にご利用下さい。

- 市価 4,100円(送料とも)のものを会員特別割引 3,720円(送料とも) となります。
- 申込は、同封の申込書に必要事項を記入の上、JID事務局へお送り下さい。冊数をまとめ次第輸入元/洋販より発送いたします。
- 詳細は同封パンフレットをご参照下さい。

(事務局)

■ 京都府中小企業総合指導所

〒600 京都市下京区西七条八幡町 31

(電話 075-312-2331)

尚、「京都デザインフォーラム'81展」は、5月26日(火)～31(日)の期間、京都府立文化芸術会館で開催、入選作品などの展示をすることになっています。

(事務局)

第10回'81ジャパンショップ

新しい店舗の創造と題して、'81ジャパンショップが開かれる。以下概要です。

- '81 JAPAN SHOP 第10回店舗総合見本市
- 主催：日本経済新聞社・(財)店舗システム協会
- 会期と場所：5.6.3.5(木)～11(水)、東京晴海見本市会場
- 催し物計画：①'81ジャパンショップ記念セミナー
②国際シンポジウム
③第8回 JAMDA 合同展(併催)ほか
- 問合せ先：ジャパンショップ運営事務局
〒100 東京都千代田区大手町 1-9-5
日本経済新聞社事業局産業事業部
(電話 03-270-0251)

尚、カタログ若干部、JID事務局にあります。

(事務局)

京都デザインフォーラム'81公募

京都府では産業デザイン振興の一環として、標題の事業を開催する。課題は“あかり”で、関西支部の野口茂さんが審査員の一人として名を連ねています。以下概要。

- 京都デザイン大賞 1点(賞金100万円)
- 京都デザイン賞 7点(賞金各10万円)
- 搬入 昭和56年5月23日(土)
- 問合せおよび応募カード請求先：
■ 京都府商工部染織工芸課

〒602 京都市上京区下立売新町西入

(電話 075-441-8428)

神奈川県デザイン会議'81

神奈川県デザイン協会(豊口協理事長)では、「地域社会とデザイン」のテーマで来る3月20日(金)にデザイン会議を開催する。

記念講演は「風土と造形」、テーブルディスカッションは④「地域に内在するデザインテーマ」、⑤「地域のデザイン活動と組織形態」が予定されている。

JIDでも後援名義を了承したので、近隣の会員の参加をおすすめします。

問合わせ先：〒221 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
県政総合センター内

商工指導センターデザイン指導室

電話 045-312-1121(内)733

(事務局)

81デザインフェアOSAKA

大阪市と(財)大阪デザインセンターでは、市民のデザインに対する理解と認識を更に深めることを意図して、標題のフェアを開催した。テーマは“生活(くらし)に役立つよいデザイン”で、大阪なんば高島屋で1月29日～2月3日開いたものである。展示は主に次のように4つの構成となった。

- くらしとグッドデザイン
大阪デザインセンター選定商品の解説付展示
- リビング・ダイニング優秀商品企業小間
ダイニングキッチンを中心とした生活用品の商品PRと販売
- ユニークなデザインの椅子と照明
視覚的な面白さが強調されたもの
- 消費者デザインアンケート

いろいろなタイプの掛時計

場所が都心でもあり、多数の市民の来場があった。

「西洋家具集成(全1巻)」

標題の保存本が、このたび発刊されました。版元の講談社の全面的協力を得て会員特別価格の購入が実現したので、以下ご紹介します。ご利用下さい。

- 体裁：B4版、4色オフセット印刷120頁、2色オフセット56頁、総232頁、カラー図版など670点を収蔵。
- 著者：鍵和田努（静岡女子大学教授）
- 価格：定価32,000円のもの送料ともで28,800円に割引
- その他の内容については同封パンフレットをごらんの上、添付申込ハガキでJID事務局へ。
- 問合せ先：〒112 東京都文京区音羽2-12-21
講談社学芸図書販売部
田崎さん
(電話 03-945-1111 内線759)
(事務局)

〒113 文京区本駒込6-15-7 木工会館内

電話 03-947-6241 川島春雄会長)

- (社)日本インダストリアルデザイナー協会(2月4日～13日、デザインプロポジション東京展を開きました。場所は浜松町日本産業デザイン館です。引続き4月～5月に台湾展、6月に名古屋展の予定です。今年のテーマは「明日にロマンを求めて」というもので、出品作品の中に明日を感じるものが目についたと自負しています。2月9日にはシンポジウムも併催しました。)

「中村隆一展」について

安 永 一 典 (関西)

私の知る限りでは、大阪に於ける家具、特に椅子の個展は初めてではないかと思う。京都に引き続き、中村隆一氏の「木の家具」展は、12月、大阪の由緒ある番画廊で開催された。氏の人柄と経歴を彷彿させる「座の変容」のテーマによるAGURA、GAKU、HIRA、SAINOME等、椅子への問題提起が、専門家のみならず、一般の人々の関心を引きまわしていた。氏の今後の益々のご活躍が期待される。

会員の消息

関連団体のうごき

- (財)大阪デザインセンター(10年間、理事長としてデザイン界のために盡力された南部知伸氏が退任し、新たに新井真一氏が理事長に就任された。55.11月付)
- (財)工芸財団(新事務所に移転しました。
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目2-3-402
電話 03-356-4966 豊口克平理事長)
- (財)日本産業デザイン振興会(2月2,3両日、経団連国際会議室で以下の国際シンポジウムを開催した。いずれ詳細の講演レポートがまとめられる。
名称：「企業経営における創造性と文化性」
講師：アーサー・プーロス(米)、ヌット・イラン(オランダ)、並木信義、竹内宏、佐々木正(日)
- インテリア産業協議会(事務局の新しい住所が決まりました。

- 但田孝義(あけましておめでとうございます。今年はトリ年、われわれの協会「とんでる」一年でありたいと念じております。今年もよろしくお願い致します。55.1.8)
- 小坂浩永(年末から新年にかけて、海外にありました。パリ—マドリッド—ロンドン—パリと廻りました)
- 香川顕郎(去年は体調がおもわしくなくて、色々の会合に出席できず、残念でした。本年はできるだけ出席したいものと思っております)
- 坂本康四(皆様方によりしくご鶴声下さい。昨冬、心臓の方で3週間許り入院しました。現在、自宅療養中です)
- 溝口 新(坂本支部長とも相談の上、距離的にも近い私が何かと都合がよいのではないかとということで、支部長病氣回復までの諸事務を私が引受けることになりました)

た。私なりに努力したいと思いますので、宜敷くご指導の程、お願い致します。連絡先は別項の通りです)

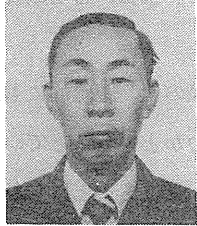
- 林 寅正 (本年4月から、私の勤務先一名古屋造形芸術短期大学 ― にインテリアデザイン専攻コースが設定されました。よろしくご指導下さいますようお願い申し上げます)
- 飾磨淳吉 (最近漸く、昔の土地に住み慣れて参りました。浪人ボケしてはいけないと思い、下手ながら油絵を楽しんでいます)
- 嶋佐知子 (本年3月30日～4月4日まで、銀座・ゑり円において“ながら空間”(Doing Something Zone)のささやかな展示を行います。どうぞよろしくご批評下さいますように)
- 加藤帛子 (昨冬11月中頃、3週間ほどかけて、アメリカの大型ショッピングセンターを見てまわってきました。省エネ対策でしょうか、天井トップライトを大々的に取り入れたものが多く、陽光の明るさと暖かさをみなおしました。商品は輸入品が多く、雑貨衣類は日本、アジア、高級品はフランス、イタリー。アメリカは何を造っているのでしょうか。アリゾナの砂漠にもトヨタが走っていました)
- 種村真吉 (55年9月号より隔月に『船の科学』に「船のインテリアあれこれ」を連載中です。56年一杯、続く予定です。
- 榎田 均 (欧州出張中です)
- 南原七郎 (1月16日の「グロピウス展」大阪展の中、パネルディスカッション「グロピウスは生きているか」にパネリストとして出席しました)
- 上辻謹一 (昨秋の名古屋研修旅行の写真、大変遅くなりました)

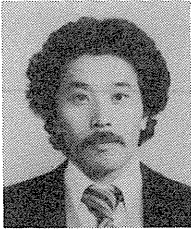
りました。写り具合、少し自信がありませんが、事務局経由で、参加会員のお手元にお届けする予定です)

- アイカ工業株式会社 (このたび、販売ならびにサービス業務の強化充実のため、東京支店―ショールーム併設―を2月23日より下記に移転いたします。〒160 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル12階 (03) 343-2351)
- 栃谷賢一 (大変な雪・雪・雪の毎日です)
- 垂見健三 (昨年10月10～11日行われた、ポツナン国際家具デザイントリエンナーレで、カテゴリー別の部門に入賞しました。入賞作品14点、カテゴリー別優秀作品7点を数えましたが、ポーランド国内の入賞が多く、他にチェコ、東独、オランダからも入賞していますが、アジアからは私のみ、オーストラリア1人という結果でした)
- 竹中幸雄 (本年は次男を交通事故で亡くし、喪中でした。会員の皆様には賀状を頂戴しながら失礼いたしました。誌上よりお詫び申し上げます)
- 三輪正弘 (ヤマハギャラリー日吉にて1月31日～2月15日まで、住宅作品展を開いています。私どもが設計させていただいた住宅作品の一部を、図面・写真・模型などによって展示するものです)
- 加集喜雄 (昨年、老妻に逝かれてから独り暮らしで、何とか日々雑用に追われています。皆様にもごぶさたしております)
- 山内陸平 (昨年のニュース8月号で紹介されたスイス国際デザインコンペティションは21ヶ国351点の応募作品があり、4次にわたる審査の結果、日本からは私の作品「ホーム・メイド家具のシリーズ」が入賞しました。

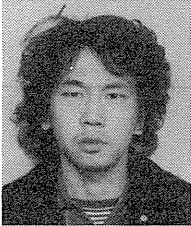
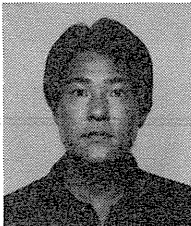
新入会員の紹介

● 新 人 会 員

はや かわ たかし 早 川 高 (会員番号485) 	<勤務先・事務所> <自 宅>	愛知株式会社 愛知県名古屋市東区赤荻町3-8 〒461 (03) 937-5931 愛知県東海市名和町森ノ上13-3 〒476 (0560) 64-9534
--	---	---

さ と う た か お 佐 藤 孝 男 (会員番号 486) 	<勤務先・事務所> <自 宅>	KKニシモト 愛知県春日井市坂下町 5-1215-59 〒480-03 (0568) 88-2005 愛知県春日井市新町 1-11-1 〒486 (0568) 33-0004
---	---	--

準 会 員

にし た ひろ と 西 田 浩 人 (会員番号 B-146) 	<勤務先・事務所> <自 宅>	東京都渋谷区恵比寿 3-8-2 〒150
なか ざわ 中 沢 ひろし (会員番号 B-147) 	<勤務先・事務所> <自 宅>	PACデザイン事務所 東京都中央区月島 4-21-7-207 〒104 (03) 534-0665 東京都大田区鵜ノ木 2-76 ベラコート 245 202 号 〒146
まつ おか かず よし 松 岡 和 吉 (会員番号 B-148) 	<勤務先・事務所> <自 宅>	ペントハウス 東京都港区三田 1-10-8 〒108 (03) 452-1277 埼玉県川越市小仙波 2-40-18 〒350 (0492) 22-4666

●会員の移動

会 員 名	移 動 事 項	新
榎 田 均 (関 東) P36	勤 務 先 電 話	株式会社コスガデザイン部 03-893-1186
龍ノ口 征 雄 (関 東) P71	勤 務 先 電 話	(株)大進システムズ 取締役設計企画部長 〒113 東京都文京区向上2-39-2 03-824-5111
加 藤 礼 三 (関 西) P123	自 宅	〒530 大阪市北区天満2-8-4-803
中 川 千 年 (九 州) P153	勤 務 先 住 所	〒877 日田市石井町3丁目 大分県日田産業工芸試験所
西 野 実 (関 西) P133	自 宅	〒558 大阪市住吉区墨江2-4-31
山 田 伊三郎 (関 東) P102	勤 務 先	(株)アイデンシー 〒104 東京都中央区新川1-30-7 茅場町スカイハイツ209号 電話 03-551-1623 (代)
加 藤 邦 夫 (関 東) P46	自 宅	〒180 武蔵野市中町3-5-24 シーアイマンション武蔵野309号
加 納 士 雄 (関 東) P47	自 宅	〒201 東京都狛江市中和泉3-10-10
吉 良 ヒロノブ (関 東) P52	事 務 所	ドッ 吉良+DOデザイン研究室 〒150 渋谷区道玄坂2-19-3 ライオンズ道玄坂608 電話 03-462-2919
富田株式会社 P213	担 当 者	下 村 忠
日米ブラインド 販売株式会社 P210	社 名	株式会社 ニ チ ベ イ
アイカ工業 株 式 会 社 P195	電 話 番 号	東京支店 03-343-2351 (代) — 2 月 23 日 より —

会 議

〔12月〕

- 5日 出版特別委員会
- 6日 新マップ特別委員会
- 12日 出版特別委員会
- 19日 "
- 25日 "
- 26日 "

〔1月〕

- 9日 出版特別委員会
- 14日 広報委員会
- 16日 出版特別委員会
- 29日 "
- 広報委員会
- 31日 渉外委員会

〔2月〕予定

- 6日 広報委員会
- 10日 総務委員会
- 16日 選考委員会

会合出席

〔12月〕

- 11日 JIDAデザイン会議'80大阪
 川崎 浩
- 16日 80ショップ・ディスプレイショウ
 川崎 浩

〔1月〕

- 8日 日本デザイン団体協議会交礼会
 泉 修二 ほか16会員
- 22日 JPDA 斉藤重孝さんを祝う会
 長 大作, 松本哲夫, 高数 昭, 山品 元
- 23日 JID新春交礼会
 三輪理事長 ほか74会員
- 26日 '81国際家具見本市のための懇談会
 泉 修二, 山品 元, 金子浩子

〔2月〕

- 4日 国際デザイン講演会(5団体主催)懇親会
 泉 修二, 山品 元

寄贈図書 (●印寄贈者)

●(社) 日 本 家 具 デザインセンター	'80デザイン保全登録年鑑	55. 12. 16
● 中部クリエイターズクラブ	中部クリエイターズクラブ会員「作品集」	55. 12. 16
●(株) 建 築 知 識	設計カタログ9 屋根材	55. 1. 14

事務局短信

- ① 明けましておめでとうございます。(中国の旧正月を祝っている気分です。)今月号は財政上の理由もあり、合併号で辛棒していただくことになりました。
- ② 多数の会員各位より嬉しい賀状が沢山、事務局に届いております。ご返事を差し上げられず心苦しいのですが、誌上よりのご挨拶で代えさせていただきます。皆様の本

年のご発展をお祈りいたします。

- ③ 地方の遠隔地会員には、遅くなりましたが2月初旬JIDカレンダーを発送いたしました。年間計画表を兼ねていますので、精々ご活用下さい。
- ④ それにしても郵便料の値上げがコタエます。小包郵便料は10月1日より最低で200円となり、上記発送物など、北海道地区が800円、と一昨年までの外国郵便料並となりました。北海道は遠くなりにつれ、です。

- ⑤ 通産省オフィスモデル化のワーキング・グループ、
『日本のインテリアデザイン』56.3月刊行予定の出版
特別委員会、『インテリアマップ TOKYO '81~'82』
56.2月予定の新マップ特別委員会、『鈴木三スケッ
チ集』56.3月予定の総務委員会など、活発な活動が続
いています。
- ⑥ 上記の事業活動を支えているのは、会員ひとりひとり
の会費です。因みに55年12月31日現在の会費納入状況は
それぞれ以下のようになっています。

正 会 員	69%	納 入 済
準 会 員	47%	"
賛 助 会 員	86%	"

会費の納入は定款の条文を云々するまでもなく前納が
原則とされています。特に準会員の方々は正、賛助会員
に比較して年会費の負担が軽いわけですから、その点を
理解して積極的に納入されることを強くお願いします。
この準会員の方々の未納会費は請求事務の簡素化を進め
る上でも現在大きなネックとなっています。

- ⑦ 参考までに以前（1979.9月号ニュース）配布したデ
ータによると、当時でさえ、会員1人当りの収支総額は
46,985円で、収入面での数字37,964円が80.8%にし
か相当していないことを理解して下さい。
- ⑧ 最近は関西支部会員の寄稿が増えています。ニュース
はすべての会員が自由に利用できる“ひろば”です。他
の支部の方々も積極的にご意見、近況など、ホットな情
報をお寄せ下さい。
- ⑨ 教育関係に携る会員は一番忙しい時期でしょう。そし
て日本海側の、北海道の、東北の——それぞれ雪の凄い
冬です。ご自愛を祈ります。
- ⑩ 事務局も決算期を迎えます。一段と多忙になるでし
ょう。どうぞご協力のほどを。

（事務局 山品 元）

お知らせ

当分の間、九州事業支部仮事務局は下記の通りです。

〒818 筑紫野市諸田116 溝 口 新方

JID九州支部事務局

（電話 09292-6-2111）

（勤務先：092-541-2668）

JID NEWS 1981/1・2

（日本インテリアデザイナー協会月報1981年通巻第106号）

毎月1回15日発行 頒価250円

編集・社団法人日本インテリアデザイナー協会総務委員会

昭和56年2月15日発行

中村圭介・川野明・増本敏治・山田晃 山下礼子・

発行・社団法人日本インテリアデザイナー協会

高田紀久枝・杉富士雄・鈴木栄二・山品元・前原誠・

〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16

藤川宏允（関西）

建築家会館3階

印刷所・広洋印刷株式会社

電話 03-403-3649

振 替・東京8-76389

デザイナーに個人事業税

ー デ団協などで対策協議をー

増税を計る政府・自民党は今国会に、デザイナーやコンサルタントに対し個人事業税を掛ける増税案提案しています。

このような動きを察知した協会では、1月23日に開かれた第5回理事会で政府案の内容を調査するとともに、デザイン関係団体によび掛け意志の統一を計り、場合によっては、関係方面に陳情するなど、反対行動をおこすことになりました。

現時点での疑問点は次の2点です。

- ① 個人事業税の対象となっている第三種業種は医師・弁護士・建築士（設計監理業）・美美容師など、事業を始めるにあたり、事業所届を出すよう規制し、無資格者の営業を禁止することによって、間接的に営業を保護している業種であり、デザイン業をこれに準ずる型で、この中に含めることは、個人事業税の主旨に反するのではないか。
- ② デザイン業は領域が広く、業態も複雑だ。営利事業として行う者の多くは、設計施工なり製造販売を行うので施工業や製造業になっている。また少し規模の大きなデザイン事務所は、源泉税の徴集をさけるため、やむなく株式又は有限会社になり、法人税を支払っている。従って今回対象になる人には、主に工芸家・図案家・画家などと同様な立場でデザインに取り組んでいる造型作家ばかりで、芸術家への課税になるのではないか。

このようなことは単に税金だけの問題ではなく、デザイン業の職能をどう理解するか問題でもあり、その意味で重要な意味を持っているようです。

= 税金のしくみ =

所得税と個人事業税

私たちは所得税（国税）を払っているのに、新たに個人事業税（地方税）を支払うよう国会に改訂案が提案されているわけですが、これは、どんな仕組みで計算されるのでしょうか。

個人事業税は前年度（3月15日までの確定申告）の事業所得（デザイン業の収入から必要経費を引いた額）を対象とし、税額は基礎控除220万円を引いた額の5%です。

これをわかりやすくするため例をあげて説明すると次のようです。

✕ 所得税の計算

区 分		収 入	経 費	所 得	摘 要
所得金額	その他事業	7,000,000	㊦ 4,200,000	㊦ 2,800,000	デザイン料
	給 与	1,100,000	500,000	600,000	基礎控除あり
	雑	300,000	90,000	210,000	原稿料など
	合 計		㊦	3,610,000	
所得引かれる	社会保険料			510,000	確定申告用紙を見るとこの他の控除も色々あります。
	配偶者控除			290,000	
	扶養控除	290,000円×2		580,000	
	基礎控除			290,000	
合 計			㊦	1,670,000	
課税される所得金額			㊦-㊦	1,940,000	
同上所得税額（税表による）			㊦	238,400	税金の還付は銀行に振込んでくれます。
源泉徴収税額			㊦	660,000	
差引還付額			㊦-㊦	421,600	

☆ 個人事業税の計算

$$\begin{aligned} \text{事業所得} \textcircled{C} 2,800,000 - \text{基礎控除 } 2,200,000 &= \text{課税所得額 } 600,000 - \\ 600,000 \times \text{税率 } 0.05 &= \text{税額 } 30,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

この例示の人の場合、デザイン料の年収を700万円としました。経費はこの収入をえるに使った費用で、事務所の家賃・消耗品・通信費・渉外費・研究費・福利厚生・所員給与・光熱費・広告費・事業税や協会の会費・外注費・雑費などで420万円になりました。

経費には自分の給与や所得税は含みませんから、残額280万円は自分の給与所得と利益の合計額に相当し、基礎控除220万円を引いた残額60万が個人事業の利益とみて個人事業税を計算する仕組みです。

給与所得として110万ありますが、これには学校の講師料やメーカーのデザイン指導の収入を含んでいます。

月一度1日とか、週一回4時間など相手方に出向き業務を行う場合「業務契約」でなく「労務契約」にすると「給与所得」となり、事業税と関係なくなります。

給与所得の必要経費は「簡易給与所得表」により50万となり、所得は60万で計算されます。

原稿料・監修料などは雑所得として30万ありましたが、30%にあたる9万円程度は経費として認められるので所得は21万円になります。

従って所得額合計は361万円になりますが、個人事業税の対象になる金額と違うことに留意しなければなりません。

所得から差し引かれる金額は「確定申告の手引き」で見て下さい。

この人の場合80%ほどが株式会社など法人相手の仕事なので源泉徴収税が60万円あり42万円余が返還されることとなりますが、住民税は別途で東京の場合大体所得税と同額位を後で支払うことになります。